



至仏山東面登山道定点調査記録集

(至仏山東面登山道利用実態調査報告書)

1997年～2004年

特定非営利活動法人
尾瀬自然保護ネットワーク

平成16年度JATA環境基金
地球にやさしい市民活動支援助成事業

記録集の発刊にあたって

NPO法人「尾瀬自然保護ネットワーク」は、1997年の発足当初（当時は尾瀬自然保護指導員ネットワーク）から「至仏山東面登山道利用実態調査」として毎年夏、定期的に至仏山東面登山道（至仏山頂～山の鼻間2.9Km）の調査を実施してきた。

今回、調査開始8年目にあたり「(社)日本旅行業協会」平成16年度JATA環境基金“地球にやさしい市民活動支援助成事業”的支援を得て、これまでの調査報告書を『至仏山東面登山道定点調査記録集』として1冊にまとめて発刊することになった。

至仏山は蛇紋岩の影響を受けた特異な地質により、森林限界は1,700mと低く、氷河期残存植物のオゼソウ・チシマアマナや蛇紋岩変形植物のシブツアサツキ・ホソバウスヒナユキソウなど貴重な植物が多く、「高山植物の宝庫」として全国的にも知られている。また、至仏山は交通の便も良く、折からの登山ブームと深田久弥の日本百名山に選ばれたことからも有名で、年々登山者が増加している。このため、登山道を外れて歩く登山者の踏み付けによる植生の破壊や裸地化の拡大をはじめ、安易な入山や滑りやすい蛇紋岩帯でのスリップ事故等が毎年発生している。

至仏山東面登山道は、植生の保護・登山道の整備・植生復元等の理由で、平成元年より閉鎖されていた。しかし、1997年8月1日に植生の保護・復元など不十分なまま再開されてしまった。

実態調査は「緑の地球防衛基金」の支援のもとに1997年から継続実施し、その結果は2年目より『至仏山東面登山道利用実態調査報告書』として環境省をはじめ自然保護団体やマスコミに対して、登山道再開による問題点を指摘し警鐘を鳴らし続けてきた。

また、2001年と2004年の2回にわたり群馬県により「笠ヶ岳西面野生動植物保護地区」（昭和52年3月25日）に指定されている至仏山の西方約4Kmに位置する「笠ヶ岳」周辺の登山道と植生状況の調査を行い、笠ヶ岳周辺における植生破壊と登山道荒廃の実態も発表してきた。

一方、2002年4月には東面登山道の荒廃問題が、ネットワークの東面登山道調査報告書を基にして国会（参議院「環境問題特別委員会」）でも取り上げられ、これを契機に2003年に、「至仏山保全緊急対策会議」が設置され、今

日の本格的な復元に向けた調査活動（調査は（財）日本自然保護協会に委嘱）が開始された。

この至仏山東面登山道定点調査記録集を発刊するにあたり「(社)日本旅行業協会 (JATA)」より多大な援助を受けたこと、並びに調査費用を毎年助成していただいた「緑の地球防衛基金」に対して、厚く御礼申し上げます。

2005年2月

特定非営利活動法人 (NPO)

尾瀬自然保護ネットワーク

NPO 法人「尾瀬自然保護ネットワーク」について

25年の活動実績を持つ「尾瀬の自然を守る会」が1996年12月に解散したため、守る会の尾瀬自然保護指導員であった有志により翌年3月に「尾瀬自然保護指導員ネットワーク」が設立された。

その主な活動内容は、福島県側の「バス添乗解説（御池～沼山峠間／会津バス）」、群馬県側の「尾瀬ヶ原における定点指導」「至仏山東面登山道調査」「尾瀬ヶ原野生ジカ頭数調査（夜間）」「尾瀬自然保護指導員の養成」などを行っている。

その後、2003年9月には特定非営利活動法人の認可を受け、「尾瀬自然保護ネットワーク」に改組して現在に至っている。

調査実施日

① 1997年

平成 9年 8月 9日 (土) 東面登山道調査 (指導員研修を兼ねる)

② 1998年 [11]

平成10年 5月16日 (土) 東面登山道調査 (1回目、残雪期の調査)

7月18日 (土) 東面登山道調査 (2回目)

③ 1999年 [19]

平成11年 7月 3日 (土) 東面登山道調査

④ 2000年 [26]

平成12年 8月 5日 (土) 東面登山道調査

⑤ 2001年 [37]

平成13年 8月 4日 (土) 東面登山道調査

8月 5日 (日) 笠ヶ岳・片藤沼登山道調査

⑥ 2002年 [52]

平成14年 7月 6日 (土) 東面登山道調査

⑦ 2003年 [64]

平成15年 7月10日 (土) 東面登山道調査 (1回目)

9月 6日 (日) 東面登山道調査 (2回目)

⑧ 2004年 [73]

平成16年 7月 9日 (土) 東面登山道調査

7月10日 (日) 笠ヶ岳登山道調査

1997年の調査報告書は未作成ため本記録集には掲載してありません。

調査メンバー(五十音順)

牛木一朗 (東京都)、 貝田 久 (埼玉県)、 島上 健 (東京都)、

清水博之 (群馬県)、 高橋 治 (山形県)、 高橋 喬 (千葉県)、

田中志朗 (栃木県)、 棚橋 収 (埼玉県)、 永島 黙 (埼玉県)、

長島睦世 (静岡県)、 西山伸一 (神奈川県)、 藤田英忠 (新潟県)、

本戸信男 (東京都)、 松前雅明 (福島県)、 山田鉄一 (静岡県)、

山本誠剛 (群馬県)、 若松 真 (東京都)

いざれも本会の自然保護指導員で、初回は指導員研修を兼ねて12名で調査を実施、以降毎回2名～6名で調査を行った。

平成 10 年 5 月 25 日

残雪期の至仏山登山道利用実態調査の報告について

(登山道閉鎖時における登山者の利用実態)

尾瀬自然保護指導員ネットワーク
利用実態調査担当幹事 永島 勲

平成 10 年 3 月 27 日、日光国立公園尾瀬地区保全対策推進連絡協議会にて、至仏山残雪期の登山道の閉鎖（5／11～6／30）が決定されました。登山道閉鎖が実際にどの程度守られているのか、また閉鎖に対して登山者がどのような認識を持っているのか、下記の方法にて調査を行いましたので、その調査結果を報告いたします。

記

○調査日 平成 10 年 5 月 16 日（土） 日帰り調査

○調査場所 鳩待峠／至仏山登山口 午前（8：20～9：35）

午後（14：10～14：25）

山の鼻／至仏山登山口 午前（10：40～12：00）

（注）今回は登山口の調査のみで、至仏山への登山は行っておりません。

○調査者 永島 勲（本会の自然保護指導員）

山本誠剛（本会の自然保護指導員）

清水博之（本会の自然保護指導員）

○調査内容 ①登山道閉鎖の案内看板等の有無とその内容／監視員の有無

②登山者数のカウント

③登山者へのインタビュー（入山目的、閉鎖情報の有無、閉鎖への認識等）

④登山者の状況（装備等）

⑤路上駐車の状況

路上駐車調査は、鳩待峠周辺で早朝（5：25）と午前（8：10）及び午後（14：30）の3回実施しました。

⑥写真による記録

（注）調査項目は、別紙「至仏山利用実態調査票」を参照下さい。

○調査報告書 別添『残雪期の至仏山（登山道閉鎖）利用実態調査報告書』を参照下さい。

以上

平成 10 年 5 月

至仏山（登山道閉鎖）利用実態調査報告書

尾瀬自然保護指導員ネットワーク

代表 高橋 喬

担当幹事 永島 勲

はじめに（閉鎖期間と閉鎖理由）

<至仏山残雪期の登山道閉鎖期間>

平成 10 年 5 月 11 日～平成 10 年 6 月 30 日

(3 月 27 日に日光国立公園尾瀬地区保全対策推進連絡協議会にて決定、残雪期の至仏山登山道の全面閉鎖は初めての試みです。)

<閉鎖の理由>

- ①雪解けのぬかるみを避けるため、コース外側を歩く登山者の踏みつけから植生を保護するため。
- ②残雪でコースが不明瞭となり、登山道を外れて歩く登山者の踏みつけから雪の下の植生を保護するため。

以下の通り調査結果を報告いたします。

I、調査日 平成 10 年 5 月 16 日（土）日帰り調査（曇りのち晴れ）

II、調査場所 鳩待峠／至仏山登山口 午前（8：20～9：35）

午後（14：10～14：25）

天気が良かず、山の鼻／至仏山登山口 午前（10：40～12：00）

III、調査者 永島 勲（埼玉県児玉町）

遠山人の山歩き

山本誠剛（群馬県安中市）

静音館

清水博之（群馬県高崎市）

鳥の山

IV、調査内容

1. 登山道閉鎖の案内看板等の有無とその内容

登山口（鳩待峠）に細いロープを張り、その中央にプラスチック板（「入山禁止」の表示あり）と補足説明が書かれていたワープロ作成の B4 判用紙（ケース入り）がかかっていた。山の鼻の登山口も同様の入山禁止の看板がかかっていた。

<プラスチック板>
[40cm×25cm]

入山禁止

至仏山は植生保護のため
(残雪期)閉鎖します
閉鎖期間 5月11日～6月30日

環境庁

<B4版ワープロ用紙>

この登山道は5月11日～6月30日までの間、高山植物等の保護のため閉鎖いたしますが、今年は例年より雪が少ないため、5月11日以前においてもなるべくご利用はお控えいただきますようご協力をお願いいたします

2. 監視員の有無

登山口に監視員は配置されていなかったが、オヤマザワ田代付近で尾瀬保護財団のボランティア（2名、男女各1名）が監視を行っていた。下山してきた監視員からの聞き取りによると、朝6時から登山口に下りてくるまで（午後2時20分）監視を行っていた。

なお、オヤマザワ田代は残雪に覆われていて、登山道を外れる危険性が高いとのこと。また、監視員の指導により6名程の登山者が登頂をあきらめ、下山した模様である。

3. 至仏山の入山者数

鳩待峠 5組 13人（個人は1組1人、グループは4組12人）

山の鼻 2組 3人（個人は1組1人、グループは1組2人）

計 7組 16人（個人は2組2人、グループは5組14人）

なお、山の鼻の登山口では、調査が終了し山小屋方面に引き上げている時、男子1人（外国人、20代）が、調査班とすれ違う形で、12時10分閉鎖ロープをくぐり抜け登山を強行する。（距離が離れていたため、インタビューは出来ませんでした）

4. 登山者の意識等

調査は、別紙「至仏山利用実態調査表」によりインタビュー形式で行いました。

| | | |
|--|----------|--------|
| ①登山道閉鎖情報の有無 | 知っていた | 3組、8人 |
| | 知らない | 4組、8人 |
| ②登山道閉鎖への認識 | 賛成 | 1組、3人 |
| | やむをえない | 5組、9人 |
| | 反対 | 1組、4人 |
| | わからない | 0 |
| ③入山目的 | 春山登山 | 5組、10人 |
| | 自然探勝 | 2組、6人 |
| | 観光、春スキー | 0 |
| (注) 雪の少ない情報が周知されていたためか、スキー板を持った入山者は見あたらなかった。 | | |
| ④入山回数 | 初めて | 2組、4人 |
| | 2回から4回 | 3組、8人 |
| | 5回以上 | 2組、4人 |
| ⑤入山者の居住地 | 群馬 | 2組、5人 |
| | 埼玉 | 2組、4人 |
| | 東京 | 1組、2人 |
| | 新潟 | 1組、3人 |
| | 静岡 | 1組、2人 |
| ⑥入山者の年齢 | 20代 | 1組、2人 |
| | 30代 | 1組、1人 |
| | 40代 | 3組、8人 |
| | 50代 | 2組、5人 |
| (注) グループの場合はメンバーの平均的な年齢による | | |
| ⑦戸倉～鳩待峠の交通手段 | 関越マイクロバス | 2組、7人 |
| | マイカー | 5組、9人 |

V. 入山者の装備等

至仏山への入山者の装備は総じてしっかりしており、軽装は見当たらなかったが、天気が良かったためか、半袖姿の登山者がいた。

| VI. 路上駐車の状況 | | |
|-------------|---------------------|------------------|
| <鳩待峠周辺> | | |
| 早朝（5：25） | マイカー | 30台、オートバイ 1台 |
| | 鳩待峠の有料駐車場（管理者：尾瀬林業） | はほぼ満車 |
| 午前（8：10） | マイカー | 159台 |
| | 鳩待峠の有料駐車場 | は満車（110台） |
| 午後（14：30） | マイカー | 170台 |
| | 鳩待峠の有料駐車場 | は確認できなかつたが、満車の様子 |
| <大清水> | | |
| 早朝（6：10） | 路上駐車なし | |

有料駐車場には32台（休憩所前）と27台（奥側）あり①

＜駐車場の有料化について＞

尾瀬林業管理の鳩待峠と大清水の駐車場は昨年より有料化。鳩待峠の駐車料金は、大型車3000円／日、普通車2000円／日、自動二輪車500円／日（大清水はいずれも、この料金の半額）。昼間は料金徴収の管理人も常駐していた。

鳩待峠の駐車場は約100台駐車可能であるが、入山者に比べて駐車台数が少ないためすぐ満車になり、やむをえず路上駐車をする模様である。

なお、至仏山登山口の大きな案内板の下部には、「この案内板は鳩待・大清水有料駐車場の利用料金で製作しております」と記入されていた。

VII. 今後の課題と感想

①登山道閉鎖情報の周知が不十分である。4組（8人）・57%（50%）以上の人人が閉鎖を知らないで入山している。地元群馬県の入山者は閉鎖を知っていたが、埼玉県の一組を除き、他の地域の入山者は閉鎖を知らない。このため、首都圏を中心に広く閉鎖情報の周知徹底を図り、入山前に入山規制が働くようにすべきである。また、閉鎖の看板はもう少し大きく、しっかりした物が良いと思われる。（強い風が吹けば吹っ飛んでしまう？）

監視員も少なく、入山者の良心に任せるだけでは、「せっかく来たのだから」と登山を強行する可能性が高い。今回、実際に閉鎖を無視して登山を強行した人も見かけた。なお、閉鎖期間も5／11～6／30と限定せず、入山者の多いゴールデンウィークの前から行うべきである。本来なら積雪期はすべて入山禁止が望ましいと考える。

②閉鎖への認識は「やむをえない」を含めて賛成が、6組（12人）・85%（75%）以上あり、入山者の尾瀬における自然保護への協力姿勢と理解が非常に高いと感じた。

③入山者は皆、調査班のインタビューに素直に応じ、また説明にも耳を傾けてくれて、全員が至仏山登山をあきらめて、尾瀬が原へコース変更をしました。1組（4人）の下山者は、閉鎖を無視して登山を強行したこと、後ろめたさのせいか、非常に恐縮した様子でインタビューに応じてくれたのが印象的であった。

④本日（5／16）より関越交通のマイクロバスはAダイヤになったが、マイカー規制前のためか、マイカーによる入山者が多かった。鳩待峠の有料駐車場はすぐに満車となり、路上駐車も前記VI. の通り170台もあり、一部では道路の両側駐車も見られた。やはり、マイカー規制は開山前であっても、全期間を通して完全に規制を行うべきである。調査班は、戸倉発7時50分のマイクロバスで鳩待峠に上がったが、乗客

は10名と極めて少なかった。早朝（4：30）のマイクロバスは満員であったこと、早朝から駐車場が満車だったこと等から判断すると、日帰りの入山者が多く（今回の調査では宿泊者は2組・5人であった）、そのため、夜明け前後の早朝に入山する人が多いと思われる。

- ⑤今年は雪が少なく、閉鎖解除を予定より早くに、という意見が新聞にもあったが、貴重な蛇紋岩の高山植物の保護を第一に考えるなら、当初の6月30日まで閉鎖を継続すべきことは当然である。

以上

至仏山利用実態調査票

尾瀬自然保護指導員ネットワーク

1. 調査日 H10, 5, 16 (土) / 時 間 開 時 分
2. 調査場所 城待峠・山の鼻
3. 入山者 個人・グループ(　　人)
4. 登山道閉鎖情報の有無 知っていた・知らない
5. 閉鎖への意識 賛成・やむをえない・反対・わからない
6. 入山目的 山スキー・春山登山・自然探勝・観光・その他
7. 入山回数 初めて・2回・3回・4回・5回以上
8. 居住地 群馬・埼玉・東京・神奈川・千葉・栃木・茨城
福島・新潟・その他(　　人)
9. 年齢 20未満・20代・30代・40代・50以上
10. 戸倉～城待峠の交通手段
関越マイクロバス・マイカー・タクシー・その他
ご協力ありがとうございました。